

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況											具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖縄総合事務局長）の意見
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目 (目標年)	目標値	達成率		
						平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年				
福岡県	福岡市	福岡のかき消費拡大協議会	かき (秋王)	26年度	販売額 98,518千円 (増加販売額 98,518千円)	0千円	0千円	0千円	9,238千円	18,802千円	28,145千円	33,149千円	32,924千円	51,902千円	98,518千円	53%	<p>販売額の増加を目標に、栽培実証や現地検討会の実施、「秋王」のブランド化に向けた販売促進活動等に取り組んだ結果、販売額は毎年増加しているものの、平成29年7月九州北部豪雨の影響等により、生産面積、生産量が当初予定を下回ったこと、コロナ禍におけるイベントの中止や青果店での販売中止の影響により認知度拡大の取組を十分に行うことができなかったことにより、成果目標は未達成となった。このため、事業実施主体に対し、目標達成に向けた改善計画の提出を求める。</p>	

新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖繩総合事務局長）の意見
						基準年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	達成率				
						平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	（目標年） 令和3年						
鹿児島県	奄美地域（徳之島）	奄美パパイヤ産地育成推進協議会	パパイヤ	29年度	販売額 55,440千円 (増加販売額 7,700千円)	47,740千円	25,782千円	2,630千円	1,919千円	2,459千円	2,304千円	55,440千円	-59%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培実証や現地検討会等による生産技術の普及</li> <li>・ブランド化に向けたPR活動</li> </ul>	<p>販売額の増加を目標に、栽培実証や栽培講習会の実施、「奄美パパイヤ」のブランド化に向けた販売促進活動等に取り組んだものの、平成30年の台風被害、令和元年からのウイルス病（パパイヤ奇形葉モザイクウイルス）のまん延、新植苗の着果不良等が発生し、生産量と販売額が大幅に減少した。産地の建て直しに向けて、ウイルス病防止対策や現地に適応した品種の選定に取り組んだものの、有効な対策には至らず、成果目標は未達成となった。</p> <p>現在も当該産地においてはウイルス病がまん延しているが、有効な農薬や抵抗性品種が開発されておらず、罹患株の除去やウイルス病が発生していない圃場への植え替え以外の有効な対策がない状況であるため、事業実施主体の自助努力による目標達成に向けた取組が困難であることから、今年度をもって評価を終了することがやむを得ないと考える。</p>		

## 新品種・新技術活用産地育成プログラムに関する事業評価票（再々評価）

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜産物名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況										具体的な取組内容	地方農政局長（生産局長、内閣府沖縄総合事務局長）の意見	
						基準年 平成25年	1年目 平成26年	2年目 平成27年	3年目 平成28年	4年目 平成29年	5年目 平成30年	6年目 令和元年	7年目 令和2年	8年目 （目標年） 令和3年	目標値			達成率
鹿児島県	奄美市 大和村 宇検村 瀬戸内町 龍郷町 喜界町	鹿児島県 園芸振興 協議会 カンキツ 新品種産 地育成 プロジェクト班	かんきつ （津之 輝）	26年度	販売額 25,339千 円 （増加販 売額 25,339千 円）	0千円	0千円	0千円	2,090千円	3,772千円	5,799千円	10,389千円	20,346千円	14,997千円	25,339千円	59.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培実証やマニュアルに基づく栽培講習会等による生産技術の普及</li> <li>・ブランド化に向けたPR活動</li> </ul>	販売額の増加を目標に、適正着果量把握の実証、生理障害対策の研修会、系統共販「奄美つかがやき」のブランド化に向けた販売促進活動等に取り組んだ結果、令和2年度は目標の80%に達したが、収量優先の多着果スタイルの着果管理を行った影響により、令和3年度は隔年結果の樹相となり生産量が伸びなかった。改善計画においては、令和3年度に着果管理技術の見直し等に取り組むこととしていたが、コロナ禍により、効果的な研修会等を設定できずSNSやオンラインでの啓発・指導活動にとどまった。これらの影響により、成果目標は未達成となった。このため、事業実施主体に対し、目標達成に向けた改善計画の提出を求める。